



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴丸イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

4月の行事予定

Table with 4 columns: 日 (Day), 曜日 (Day of Week), 行事 (Event), 校時 (School Time), 学食 (School Lunch). Rows include dates from 1st to 30th with various events like '新式 前期始業式' and '学年朝会'.

私にとっての教員生活最後の評論教材「身体と思考」(内田樹著)の一節に、「言葉だけがあって、身体的実感が伴わない。その逆に、身体的実感はあるが、言葉にならない。この絶えざる不均衡状態から言葉は生まれてくる。むしろ、そこからしか言葉は生まれてこない。」とあった。

この「改革」なるものの背景には何があるのだろうか。ある原稿執筆のため三年前に調べたのだが、文科省と経団連の二つの報告書には、共通して「誰もAIを活用し、想像力・創造力を発揮することが求められ、Society 5.0において文系・理系間の垣根は本質的に意味がないという、文理分断からの脱却……」という内容の箇所がある(平成30年度の文科省及び経団連のSociety 5.0関連の報告書より)。

「そつと見守り、心強い言葉で励まし、帰る場所を用意してくれた家族への感謝」「先輩の存在が、先輩として背筋を伸ばし毅然としていられたという感謝」「いつ何時も正面から向き合い、愛のある指導を受けることができた先生方への感謝」の気持ちと述べ、「これまで日々の感謝し、これからも一日一日を大切に生きていきます」と結びました。

3月1日、308名の卒業生は、共に過ごした学び舎を巣立っていきました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、保護者、教職員、来賓に見守られる中で挙行された卒業式となりました。厳粛で落ち着いた雰囲気の中、卒業生の立派に成長した姿が頼もしく感じられました。



濱田先生の1年生漢文の授業風景より

「純粋な「知の格闘」が中心となる大学教育であってほしい、そして若者はこのめまぐるしい変化に振り回されることなく強かに生き抜いてほしいと、切に願うばかりである。

送辞では、生徒会長の宮里慈恩さんが、最上級生としての自覚と鶴丸生の本質を、言葉だけでなく行動で示してくれた3年生へ感謝の気持ちとそれを引き継ぐ決意を述べました。そして、最後に、映画「風立ちぬ」で、時代に翻弄されながらも夢を追いかけた主人公の話をもとに、「風をつかみ、夢に向かって大きく羽ばたいてください」とエールを送りました。

この一年間、「自分との向き合い方」について問いかけてきた前田校長は、式辞の中で、「己と向い合った時に心の奥から聞こえてくる声に常に素直であってほしい」と話されました。

大学とは何ぞや 国語科 濱田 忠臣

若鶴に光あれかし 第73回卒業式

答辞では、前生徒会長の堀口琴菜さんが、「そつと見守り、心強い言葉で励まし、帰る場所を用意してくれた家族への感謝」「先輩の存在が、先輩として背筋を伸ばし毅然としていられたという感謝」...

「純粋な「知の格闘」が中心となる大学教育であってほしい、そして若者はこのめまぐるしい変化に振り回されることなく強かに生き抜いてほしいと、切に願うばかりである。」

送辞では、生徒会長の宮里慈恩さんが、最上級生としての自覚と鶴丸生の本質を、言葉だけでなく行動で示してくれた3年生へ感謝の気持ちとそれを引き継ぐ決意を述べました。

この一年間、「自分との向き合い方」について問いかけてきた前田校長は、式辞の中で、「己と向い合った時に心の奥から聞こえてくる声に常に素直であってほしい」と話されました。



送辞を述べる生徒会長の宮里慈恩さん



答辞を述べる前生徒会長の堀口琴菜さん



ために活かして行ってほしいと願っています。

↑発行時の予定です。変更にご注意ください。

Table for '令和3年度 教職員定期人事異動' showing staff changes between departments like 石谷, 濱田, 中須, etc.

令和3年度 教職員定期人事異動



白く美しい花が咲くのが楽しみです

この木を愛した先生が、令和2年12月急逝されました。国語科の山元郁夫先生です。御自身も本校を卒業し、平成元年に着任以来、長きに渡って本校で教鞭を執られました。山元先生はいつも「生徒が動く授業は楽しい」と、笑みをたたえて話していました。その山元先生が好きだった「なんじゃもんじゃの木」を、山元先生を偲んで植樹しました。

なんじゃもんじゃの木

2月、プール前テニスコートの横に、一本の木が植えられました。ヒトツバタゴ(モクセイ科)の木、別名「なんじゃもんじゃの木」です。今はまだ細い木ですが、大きくなると、初夏に真っ白な花が咲き乱れることから、スノーフラワーとも呼ばれます。散り際もまたきれいで、プロペラのよう回転して散るそうです。珍しさのあまり「あれはなんともいえない木」と尋ねたことから「なんじゃもんじゃの木」と称されるようになったそうです。